

## 〈歴史パネル〉

# 証券発行市場の形成と韓国投資開発公社 —1968-1976年の資本市場育成政策を中心に—

梨花女子大学 李明輝

## 〈報告要旨〉

本研究は、韓国の資本市場育成政策の実務を担当した韓国投資開発公社の活動を通じて第1-3次経済開発計画期間における国内資本動員計画とその推進の実態を明らかにすることを目的とする。

韓国の資本市場は、1968年から産業資金の調達機能を果たし始めたが、市場の機能によって証券が供給されて価格が決定されるようになるのは1976年以降である。1968-1976年の約8年間に、市場を創成し、商品を開発して取引を誘導するインキュベーターの役割を担ったのが韓国投資開発公社であった。本研究は、韓国投資開発公社の資料を検討した最初の試みであり、発行市場に焦点を当てた新しい試みである。

韓国投資開発公社の役割は、資本市場の育成政策の推進と関連して、3段階に区分される。第1段階では上場企業のほとんどを占めていた政府保有株式を売却し、引受公募を手配することにより、国の公企業の株式を民間に分散させ、株式市場を拡大させる役割を担った。第2段階では、公募企業を選定し、株式を買収し、市場に分売することにより、民間企業の株式が供給されるようにサポートして誘導する役割を1972年の「8・3措置」以後に担当した。第3段階では、企業の公開命令を推進する実務機関として、大企業と関連会社の株式を市場に供給するようになった。以降、資本市場の機能が動きはじめるとすぐに、すべての機能を民間証券会社に移譲し、韓国投資開発公社は解散される。

その結果として、1976年以降、韓国の資本市場は国内の貯蓄資金が商業と高利貸資金に吸収される経路を遮断して、重化学工業化の産業資金を調達することができる経路を整備した。政府は、第2-3次経済開発計画の期間中に必要となる投資財源を資本市場を通じて調達しようとする強力な政策意志を有していた。韓国投資開発公社は、上場への誘導から強制的な変更を推進することができる機関として、この政策意思を間接的に実行する役割を果たしていた。